

荒廃農地活用事業（たんぼの楽耕）

（奈良県・河合町農業委員会）

担い手への
農地利用の
集積・集約化

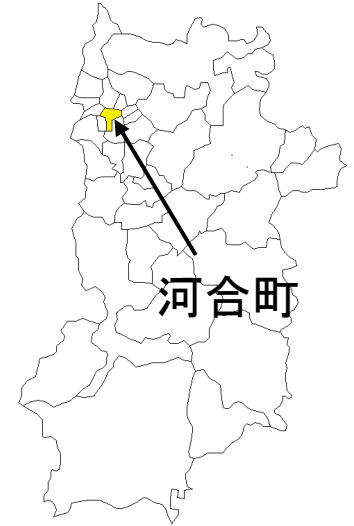
遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他（農業
委員会の体
制強化等）

1 地区の特徴・状況、課題

○奈良県の北部を占める大和平野地域の北西部に位置し、奈良市から約20km、大阪市から約25kmの圏内であるため、交通の便が良いことから昭和43年にニュータウン開発等で住宅地化が進み、現在の人口は約1万7千人となっている。平地では稲作、丘陵地ではぶどう栽培を主体に農業生産を実施してきたが、都市近郊型農業で、兼業農家が多く、農業者の高齢化及び後継者不足により、荒廃農地が増加している。



2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

○平成27年度より荒廃農地及び荒廃農地になる見込みがある農地を活用し、荒廃農地活用事業（たんぼの楽耕）を開始した。ニュータウンなどの都市住民（大人から子どもまで）や就農希望者に、農業委員及び農地利用最適化推進委員が営農指導を行い、農業体験を実施。また営農技術の育成、就農希望者の掘り起こし、食育とともに荒廃農地の解消を図り、さらに参加者と農村集落の住民との交流を通じて、都市近郊型の農業地域の特色である利便性の良さをアピールした。



3 活動（取組と工夫）の結果

○荒廃農地を活用し事業を実施することにより、約6,500㎡の荒廃農地を解消。

○参加者2名に農地約4,300㎡の貸付けを行い、新規就農に導いた。

